

大規模地震発生! どうする?

あたり前のように使っている電気が、突然使えなくなったら...

停電



夜間の場合、安全に避難することが困難になります。



情報が入手することが困難になります。

熊本地震による停電戸数は最大で約48万戸

(出典：非常災害対策本部資料より)

身の安全を確保するために、地震発生時の停電に備えましょう。

備え① 安全に避難するためには

夜間の場合、出口がわからない、床の段差やガラスの破片が見えないなど、とても危険です。

→ **リビングや寝室などに懐中電灯や足元灯を備えましょう。**



懐中電灯と足元灯とを兼ね、停電や地震が起きた時に自動的に点灯するタイプが有効です



足元灯の設置が難しい階段などには、蓄光テープが効果的です。

備え② 災害情報を確保するためには

インターネットや携帯電話などを利用できないおそれがあり、情報を得ることが困難になります。

→ **ラジオや予備の電池を常備しておきましょう。**



手で充電できるラジオもあります



停電時、屋内で救助を待つ場合や 屋内での避難生活に備えて

家庭用医療機器等については必要な予備バッテリーを備え、停電時の電源の切り替え手順などを確認しておくことも必要です。

【地震による電気火災の発生に注意！】

地震による火災の過半数は電気が原因であることをご存じでしょうか。

東日本大震災の本震による火災で、原因が特定されたもの **108 件のうち 58 件が電気関係の出火**でした。
(2011 年東日本大震災火災調査報告書より)

地震発生後、避難のために自宅を離れるときは、**停電時であってもブレーカーを切りましょう**。不在中に電気が復旧したとしても、電気ストーブやヒーターなどの上に落下した布などからの出火を防ぐことができます。

また、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合には、**一定以上の揺れが発生した際に電気を自動的に止める感震ブレーカーの設置が有効**です。なお、感震ブレーカーの設置に際しては、急に電気が止まっても困らないための対策と合わせて取り組むことが必要です。

※本チラシは、主に地震で停電した場合の留意点を記載したものであり、地震発生時の対策を網羅したものではありません。地震対策も合わせて実施してください。